

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650180320		
法人名	医療法人 若草会		
事業所名	グループホーム わかくさ		
所在地	徳島市川内町小松西93		
自己評価作成日	令和2年1月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中は施設せず開放的な環境のもと利用者は自由に戸外で散歩を楽しまれている。「一人一人の生活を大切に」という運営理念のもと、利用者一人一人が今までの生活を絶やすことなく、自由に希望に添った生活ができるように、またできる力が最大限発揮できるよう自立支援に取り組んでいる。職員は常に利用者の声に耳を傾け、希望や要望をしっかりと受け止め、生活の向上・改善に繋げている。医療面では看護師を配置し、毎日の健康状態を把握し、医療機関との連携を密に行っている。また外部研修や勉強会を通して利用者の生活の向上、職員のスキルアップ、チームワークづくりを目指している。地域との関わりを大切に、子供会等との合同行事、運動会への参加、また、地域例祭等の行事参加も可能な限り行っている。ほか、ボランティア様の来設も盛んである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田畑に囲まれた静かな場所に位置している。理念に「一人一人の生活を大切に」を掲げ、利用者一人ひとりのこれまでの生活を把握しつつ、意向や希望等にそった支援ができるよう取り組んでいる。利用者との繋がりが地域で暮らすことを大切に捉え、近隣の保育所や地元小学校、子ども会等と継続的に交流している。食事の準備等に関する一連の作業は、職員と利用者が一緒に行っている。利用者から調理方法を教わるなど、個別の経験や知識を活かすとともに、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。医療面については、看護師や作業療法士を配置し、専門性を活かしつつ、利用者の健康管理を支援している。協力医療機関と連携し、定期的な訪問診療や緊急時の対応など、連携体制を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人の生活を大切に」を理念としている。地域の一員としてこれまでの暮らしをできる限り継続できるよう、毎日のミーティング等で確認し、ケアプランにも取り入れて実践している。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。日ごろの支援のなかで、職員間での共有化を図りつつ、実践に繋げている。事業所内に理念を掲示することで、利用者や家族等にも周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校と繋がりを持ち、お互いの行事参加を通して交流を図っている。夏休みには子供会と一緒にラジオ体操をしたり、年末にはクリスマス会を行っている。また、防災訓練や町内行事等でも地域住民との交流がある。	事業所では、地域の保育園や小学校と継続的に交流があり、利用者の楽しみに繋げている。また、地域のラジオ体操や通学の見守りを行うなど、地域密着型サービス事業所としての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生を受け入れ、人材育成の貢献に努めている。また地元小学校や保育所を訪問し、交流を依頼。課外学習の受け入れを行っている。夏休みには昔の遊び、おやつ作り等を通じた4世代交流・冬休みにはクリスマス会等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や活動・行事の予定と報告、職員の取り組み等を報告している。参加者からは地域の情報や提案などをいただき、ホームの運営やサービスの質の向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を実施している。会議には、地域包括支援センター職員や他事業所職員、町内会長、民生委員、町内ボランティアなどの参加を得ている。日ごろの様子や研修の報告を行い、意見を受けるなど、双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事予定表、活動報告を記載した広報紙を毎月お届けし、いろいろな情報や助言をいただいている。	職員は、毎月、市の担当窓口を訪問し、事業所の状況等を報告している。随時、制度等に関してわからないことがあれば、電話等で連絡し、アドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、自由に出入りできる開放的な環境作りを行っている。外に出ようとする行為が見られたら一緒に散歩に出かけ、さり気なく声かけをし納得されてからホームに帰ってくるという寄り添うケアを心がけている。	事業所では、身体拘束に関する勉強会を開催し、職員間での意識の共有化を図っている。利用者一人ひとりの思いや意向を把握しつつ、身体拘束をしない暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、職員会議時及び随時に勉強会を行い職員の理解を深めている。また、外部研修への参加を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議時に定期的に勉強会を行い、必要ときに支援ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を取って丁寧に説明している。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、今後の対応について十分に話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の際に家族会を開催し、意見や要望を言って頂ける機会を設けている。また、意見箱を設置し、利用者にも自由に投函できるようにしている。出された意見や要望をきちんと受け止め、日々のケアに活かしている。	事業所では、日ごろの会話の中で、利用者の生活や嗜好についてききとっている。家族等については、面会時に意見等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見について検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、夕礼の他、毎月一回ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞き、運営に役立てている。また、常時においても職員各々が発言、提案しやすい雰囲気作りに努めている。	管理者は、日ごろの支援やミーティング等の際に、職員が意見を出しやすいよう、コミュニケーションを図っている。職員からの意見やアイデアを積極的に取り入れ、支援のなかで活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標及び主任、管理者の人事考課表などで職員の勤務状況の把握に努めている。各種研修会を計画的に実施して、資格取得者には特別昇給等給与面にも反映するよう規程等を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や併設事業所で開催される研修にも参加している。ホーム内では、月一回勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは連絡を取り、ホーム内の見学や実習、意見交換を行っている。また互いに運営推進会議や行事に参加し、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面談し、これまでの生活の状態の把握に努めている。現在困っていることや希望されることを理解した上で、安心して生活ができる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望や困っていることを確認・理解し、今後のケアに生かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者やご家族の希望や状況を確認し、できるだけ柔軟に対応を行い、必要に応じて居宅介護支援事業所、併設介護保険施設にも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する人、される人の関係ではなく、人と人として関わる」「私たちはリビングパートナー」という言葉を職員教育に組み込んでいる。利用者を家族として、また人生の先輩として接することを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望や思いを理解し、昼食会やお誕生日、外出などの機会を設け、一緒に利用者を支えるための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や墓参り、近所の神社へのお参り、馴染みの理美容室や商店等を希望される方に、個別外出の支援を行っている。また昔の記憶の中にある懐かしい場所への外出も行っている。事業所では困難な場合は、家族にも協力を仰いでいる。	事業所では、利用者の馴染みの理髪店へ送迎するなど、関係性の継続に努めている。友人や知人等の来訪があった際、居室や共用空間でくつろいで過ごすことができるよう配慮している。家族等の協力を得つつ、支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、気の合う者同士で過ごせる場面づくりに努め、家事やレクリエーション活動を通して、お互いに支え合える関係づくりを支援している。利用者同士の関係がうまくいこう、見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後はお見舞いに行ったり、退去された方の相談、サポートにも応じている。また、本人、家族様の経過をお聞きする等、関係性を大切にしている。				
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が密に関わることに、ご家族にも協力仰ぐことより、一人一人の思いや希望の把握に努めている。	職員は、日ごろの利用者の様子等から、できることを考えて支援に取り組んでいる。家族等からも情報を得つつ、職員間で共有化を図り、意向の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、表情や行動などから、本人本位に検討している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、利用前に自宅を訪問し、これまでの生活歴を把握している。入居後も利用者やご家族との会話の中から生活の様子の把握に努めている。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活のリズムを理解し、日頃の言動から利用者の全体像の把握に努めている。アセスメントによるセンター方式を活用している。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族の要望を聞き、課題を職員間で話し合い、希望する生活ができるように介護計画の作成に努めている。	事業所では、利用者や家族等の意見を踏まえ、事業所独自の介護計画書を作成している。3か月に1回、本人の状況に応じて計画を見直している。担当職員を中心として、全職員で検討している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状態や利用者の言動、その他気付いたことなどを個別のファイルに記録している。また特に申し送りが必要な事柄は、日誌に記録し毎日の業務開始前にも個々で確認している。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の希望や状況に応じて、受診や個別外出等を行い、個々の満足を高めるように努力している。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来訪時は演芸会を楽しんだり、意見交換なども行っている。運動会などの学校行事や例祭参加を通して地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族が希望するかかりつけ医に、状態に合わせて随時受診・往診を受けることができるよう支援している。体調変化がある時は、ご家族にも同行してもらい診察結果を聞いてもらっている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医等を受診する際は、職員が付きそっている。本人の心身状況について、家族等と情報共有しつつ、柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。24時間気軽に相談できる体制をつくっており、介護職員はちょっとした状態変化も連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の支援方法に関する情報を医療機関に提出し、定期的に見舞い、健康状態を把握するようにしている。退院時には医療機関より情報を引き継ぎ、ホームでの継続的な健康管理に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応方針、看取り介護について説明を行い同意をいただいている。本人やご家族の意向を大切に、利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう、医療機関との連携体制をつくり、勉強会を通して職員の知識向上にも取り組んでいる。	事業所では、入居時の段階で、重度化や看取りに関する指針について、利用者や家族等に説明している。心身の状況の変化に応じて、家族等から意向を確認している。協力医療機関と連携しつつ、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	担当委員会を設け、看護師の指導を中心に定期的に転倒・骨折・のどの詰り・意識消失発作等の緊急時対応について勉強会を行っている。また対応マニュアルを作成し、緊急連絡体制も整え、搬送等の訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、有事に備えている。利用者も参加の訓練を年3回以上実施している。また近隣住民にも協力頂き、地域での緊急連絡体制ができている。	事業所では、年3回以上、地域住民の参加・協力を得て、避難訓練を実施している。昼夜における火災や地震等を想定し、避難経路の確認や通報、消化などの訓練に取り組んでいる。地域と連携を図り、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、丁寧な言葉かけを心がけている。また利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応ができるよう、職員研修では、勉強会やマナー教室を行っている。	職員は、支援のなかで、利用者一人ひとりの人格を尊重するよう取り組んでいる。利用者の自己決定を大切に捉え、選択ができるような声かけに努めている。事業所では、新人職員研修の際に、個人の尊重について話しあい、意識の共有化を図っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、利用者が意思表示や自己決定ができるよう声かけを行い、希望に添った生活ができるよう支援している。特に担当職員が密に寄り添うことで希望や願いを聴きだせるよう支援している。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間に幅をもたせて、一人一人のペースにあった生活ができるよう支援している。また突然の買い物や外出の希望にもできるだけ対応している。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、自分で選んで更衣できるよう見守りを行っている。希望に応じて、馴染みの理美容院に行き、希望する髪型にしている。また、毛染めやカラーでセットしたり、いつでも自由に化粧し、身だしなみができるよう支援している。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は協力事業所の管理栄養士の助言をベースの上、利用者の好みや得意料理を反映できるように配慮している。調理・味つけ・盛り付け・後片付け等も利用者と共に、職員も一緒に楽しく食事できるよう配慮している。	食事は、毎日三食、事業所で作ったものを提供している。地域住民から野菜の差し入れを受けることもあり、献立に加えている。調理や盛り付け、配膳などを利用者とともに行うことで、食事が楽しくなるよう工夫している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に献立の指導をしてもらっている。また利用者の嗜好や身体の状態を把握し、一人一人にあった食事の提供を行っている。食量・水分量・提供形態もチェックをもとに各利用者に合わせている。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、状態に応じた口腔ケアを行っている。必要時は歯科往診を依頼し、専門医との連携を図っている。				

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により排泄パターンを確認している。また、トイレ声かけ、誘導等適切な対応を心掛け、汚染状態の確認を行い、オムツ、紙パンツ、パッド使用を減らせるよう取り組んでいる。	事業所では、利用者の排泄の自立に向けて支援している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切なタイミングでトイレへ誘導している。夜間はポータブルトイレ等を活用するなど、安全面に配慮している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため繊維質の多い野菜を選んだり、毎日ヨーグルトを作り摂取するようにしている。また個々の状態に合わせて散歩や歩行訓練、体操・家事活動などで体を動かせるよう心がけ、便秘予防に取り組んでいる。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望により、毎日自由に、時間を制限せずに入浴できる環境作りと支援による安全面の配慮を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの希望にあわせて、毎日でも入浴できるよう支援している。入浴の拒否がある場合は、声をかけるタイミングを変更するなど、個別の意向にあわせて工夫している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家事やレクリエーションの合間に、居室やソファなどで休息を取っている。就寝時間を把握し、利用者に合わせて声掛けを行っている。ご家族にも協力依頼し、馴染みや機能に応じた寝具も使用し安眠できるような環境を整えている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が確認できるよう、薬剤処方内容をチェックシート、個別ファイルに記入、管理している。薬剤師にも副作用等注意事項を記入してもらっている。また、後発医薬品のリストの作成、管理も行っている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮できるよう、掃除やごみ出し、洗濯、買い物、調理等の役割を担い、手芸や書道、園芸等自分の趣味にあったレクリエーション活動に参加している。外出や外食も利用者と相談しながら行っている。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体での外出・小グループ外出・個別外出に分け、希望を聞き、遠出の外出や買い物等ご家族にも協力いただき行っている。個別外出で自宅やその周辺など馴染みの場所、希望された時に行く事ができるよう配慮している。ホーム周辺の散歩は自由にできるよう環境を整え、見守りを行っている。	事業所では、日ごろから、近隣を散歩したり、庭先に出たりして、外出の機会を設けている。一人ひとりの希望に応じて、花見や買い物などの外出支援を行っている。車椅子を活用するなどして、全ての利用者が外出できるよう工夫している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に合わせて金銭を所持してもらい、買い物時には自分で支払いをしている。また職員が管理している方は、希望時に手渡している。自らの財布から現金を渡し、買い物依頼をされている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人に自由に電話できるよう支援したり、友人や親戚に手紙を出せるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けや自分たちで作成した塗り絵、貼り絵等の掲示を行い、また、時に花を生け心地よく過ごせるような工夫をしている。食事準備も台所だけではなくテーブルで協力し合いながら行い、家庭的な雰囲気も感じられるよう工夫している。	共用空間には大きな窓があり、明るく清潔感がある。利用者の心身の状況に合わせて、移動しやすいよう、机や椅子などの配置を工夫している。壁面には、季節感のある飾り付けを行うなど、居心地よく過ごせる環境づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファでくつろいだり、畳の上で横になれるスペースがある。玄関やテラス、中庭、菜園にも椅子やベンチを置き、一人一人が気に入った場所でゆったり過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやテーブル、整理棚、鏡台等を好みに合わせて配置し、一人一人が居心地よく過ごせるよう工夫している。また、本人の用途、趣向に合わせて椅子、冷蔵庫、布団、枕、花、写真、ぬいぐるみ等の馴染みの品を持ち込んでいる。	居室には、机や椅子、タンスなど、利用者の使い慣れた家具を持ち込んでもらっている。鏡台や木彫りの彫刻、家族写真等の思い出の品も多く持ち込まれている。また、床にマットを敷くなど、利用者一人ひとりの状況にあわせて工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を発揮できるよう、トイレや浴室に「使用中・空いています」等の札を掛けるなど工夫している。安全面では、利用者の状態に合わせて椅子(回転・固定)や介助バー・マットを使用している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人の生活を大切に」を理念としている。地域の一員としてこれまでの暮らしをできる限り継続できるよう、毎日のミーティング等で確認し、ケアプランにも取り入れて実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校と繋がりを持ち、お互いの行事参加を通して交流を図っている。夏休みには子供会と一緒にラジオ体操をしたり、年末にはクリスマス会を行っている。また、防災訓練や町内行事等でも地域住民との交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生を受け入れ、人材育成の貢献に努めている。また地元小学校や保育所を訪問し、交流を依頼。課外学習の受け入れを行っている。夏休みには昔の遊び、おやつ作り等を通して4世代交流・冬休みにはクリスマス会等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や活動・行事の予定と報告、職員の取り組み等を報告している。参加者からは地域の情報や提案などをいただき、ホームの運営やサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行事予定表、活動報告を記載した広報紙を毎月お届けし、いろいろな情報や助言をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、自由に出入りできる開放的な環境作りを行っている。外に出ようとする行為が見られたら一緒に散歩に出かけ、さりげなく声かけをし納得されてからホームに戻ってくるという寄り添うケアを心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、職員会議時及び随時に勉強会を行い職員の理解を深めている。また、外部研修への参加を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		職員会議時に定期的に勉強会を行い、必要なときに支援ができるように努めている。				
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		契約時には時間を取って丁寧に説明している。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、今後の対応について十分に話し合っている。				
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		行事の際に家族会を開催し、意見や要望を言って頂ける機会を設けている。また、意見箱を設置し、利用者にも自由に投函できるようにしている。出された意見や要望をきちんと受け止め、日々のケアに活かしている。				
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		朝礼、夕礼の他、毎月一回ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞き、運営に役立てている。また、常時においても職員各々が発言、提案しやすい雰囲気作りに努めている。				
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		個人目標及び主任、管理者の人事考課表などで職員の勤務状況の把握に努めている。各種研修会を計画的に実施して、資格取得者には特別昇給等給与面にも反映するよう規程等を整備している。				
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		外部研修や併設事業所で開催される研修にも参加している。ホーム内では、月一回勉強会を行っている。				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		地域の同業者とは連絡を取り、ホーム内の見学や実習、意見交換を行っている。また互いに運営推進会議や行事に参加し、交流を行っている。				

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面談し、これまでの生活の状態の把握に努めている。現在困っていることや希望されることを理解した上で、安心して生活ができる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望や困っていることを確認・理解し、今後のケアに生かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者やご家族の希望や状況を確認し、できるだけ柔軟に対応を行い、必要に応じて居宅介護支援事業所、併設介護保険施設にも相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する人、される人の関係ではなく、人と人として関わる」「私たちはリビングパートナー」という言葉を職員教育に組み込んでいる。利用者を家族として、また人生の先輩として接することを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望や思いを理解し、昼食会やお誕生日、外出などの機会を設け、一緒に利用者を支えるための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や墓参り、近所の神社へのお参り、馴染みの理美容室や商店等を希望される方に、個別外出の支援を行っている。また昔の記憶の中にある懐かしい場所への外出も行っている。事業所では困難な場合は、家族にも協力を仰いでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、気の合う者同士で過ごせる場面づくりに努め、家事やレクリエーション活動を通して、お互いに支え合える関係づくりを支援している。利用者同士の関係がうまくいくよう、見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後はお見舞いに行ったり、退去された方の相談、サポートにも応じている。また、本人、家族様の経過をお聞きする等、関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が密に関わることに、ご家族にも協力仰ぐことより、一人一人の思いや希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り、利用前に自宅を訪問し、これまでの生活歴を把握している。入居後も利用者やご家族との会話の中から生活の様子の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活のリズムを理解し、日頃の言動から利用者の全体像の把握に努めている。アセスメントによるセンター方式を活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族の要望を聞き、課題を職員間で話し合い、希望する生活ができるように介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状態や利用者の言動、その他気付いたことなどを個別のファイルに記録している。また特に申し送りが必要な事柄は、日誌に記録し毎日の業務開始前にも個々で確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の希望や状況に応じて、受診や個別外出等を行い、個々の満足を高めるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来訪時は演芸会を楽しんだり、意見交換なども行っている。運動会などの学校行事や例祭参加を通して地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族が希望するかかりつけ医に、状態に合わせて随時受診・往診を受けることができるよう支援している。体調変化がある時は、ご家族にも同行してもらい診察結果を聞いてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。24時間気軽に相談できる体制をつくっており、介護職員はちょっとした状態変化も連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の支援方法に関する情報を医療機関に提出し、定期的に見舞い、健康状態を把握するようにしている。退院時には医療機関より情報を引き継ぎ、ホームでの継続的な健康管理に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応方針、看取り介護について説明を行い同意をいただいている。本人やご家族の意向を大切に、利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう、医療機関との連携体制をつくり、勉強会を通して職員の知識向上にも取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	担当委員会を設け、看護師の指導を中心に定期的に転倒・骨折・のどの詰り・意識消失発作等の緊急時対応について勉強会を行っている。また対応マニュアルを作成し、緊急連絡体制も整え、搬送等の訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、有事に備えている。利用者も参加の訓練を年3回以上実施している。また近隣住民にも協力頂き、地域での緊急連絡体制ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、丁寧な言葉かけを心がけている。また利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応ができるよう、職員研修では、勉強会やマナー教室を行っている。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、利用者が意思表示や自己決定ができるよう声かけを行い、希望に添った生活ができるよう支援している。特に担当職員が密に寄り添うことで希望や願いを聴きだせるよう支援している。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間に幅をもたせて、一人一人のペースにあった生活ができるよう支援している。また突然の買い物や外出の希望にもできるだけ対応している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り、自分で選んで更衣できるよう見守りをしている。希望に応じて、馴染みの理美容院に行き、希望する髪型にしている。また、毛染めやカラーでセットしたり、いつでも自由に化粧し、身だしなみができるよう支援している。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は協力事業所の管理栄養士の助言をベースの上、利用者の好みや得意料理を反映できるように配慮している。調理・味つけ・盛り付け・後片付け等も利用者と共に行い、職員も一緒に楽しく食事できるよう配慮している。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に献立の指導をもらっている。また利用者の嗜好や身体の状態を把握し、一人一人にあった食事の提供を行っている。食事量・水分量・提供形態もチェックをもとに各利用者に合わせている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、状態に応じた口腔ケアを行っている。必要時は歯科往診を依頼し、専門医との連携を図っている。					

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により排泄パターンを確認している。また、トイレ声かけ、誘導等適切な対応を心掛け、汚染状態の確認を行い、オムツ、紙パンツ、パッド使用を減らせるよう取り組んでいる。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため繊維質の多い野菜を選んだり、毎日ヨーグルトを作り摂取するようにしている。また個々の状態に合わせて散歩や歩行訓練、体操・家事活動などで体を動かせるよう心がけ、便秘予防に取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望により、毎日自由に、時間を制限せずに入浴できる環境作りと支援による安全面の配慮を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家事や・レクリエーションの合間に、居室やソファなどで休息を取っている。就寝時間を把握し、利用者に合わせた声掛けを行っている。ご家族にも協力依頼し、馴染みや機能に応じた寝具も使用し安眠できるよう環境を整えている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が確認できるよう、薬剤処方内容をチェックシート、個別ファイルに記入、管理している。薬剤師にも副作用等注意事項を記入してもらっている。また、後発医薬品のリストの作成、管理も行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮できるよう、掃除やごみ出し、洗濯、買い物、調理等の役割を担い、手芸や書道、園芸等自分の趣味にあったレクリエーション活動に参加している。外出や外食も利用者と相談しながら行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体での外出・小グループ外出・個別外出に分け、希望を聞き、遠出の外出や買い物等ご家族にも協力いただき行っている。個別外出で自宅やその周辺など馴染みの場所、希望された時に行く事ができるよう配慮している。ホーム周辺の散歩は自由にできる環境を整え、見守りを行っている。			



自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		一人一人の能力に合わせて金銭を所持してもらい、買い物時には自分で支払いをしている。また職員が管理している方は、希望時に手渡している。自らの財布から現金を渡し、買い物依頼をされている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		ご家族や友人に自由に電話できるよう支援したり、友人や親戚に手紙を出せるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		季節にあった飾り付けや自分たちで作成した塗り絵、貼り絵等の掲示を行い、また、時に花を生け心地よく過ごせるような工夫をしている。食事準備も台所だけでなくテーブルで協力し合いながら行い、家庭的な雰囲気も感じられるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		椅子やソファでくつろいだり、畳の上で横になれるスペースがある。玄関やテラス、中庭、菜園にも椅子やベンチを置き、一人一人が気に入った場所でゆったり過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		テレビやテーブル、整理棚、鏡台等を好みに合わせて配置し、一人一人が居心地よく過ごせるよう工夫している。また、本人の用途、趣向に合わせて椅子、冷蔵庫、布団、枕、花、写真、ぬいぐるみ等の馴染みの品を持ち込んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		一人一人の力を発揮できるよう、トイレや浴室に「使用中・空いています」等の札を掛けるなど工夫している。安全面では、利用者の状態に合わせて椅子(回転・固定)や介助バー・マットを使用している。		